

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300500		
法人名	医療法人大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎		
所在地	大分県由布市挾間町古野269番地1		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年3月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは医療法人が運営しており併設または隣接して有床診療所、介護老人保健施設が設けられています。そのため医師・看護師の協力も得られやすく医療面において密度の濃いサービス提供が可能であり、利用者様ご家族様には安心して利用できるメリットも有しています。また2ユニットである環境を活かし利用者様の状況に応じた住み分けができることにより重度化した状況でも可能な限り、またはご希望によっては終末期までも住み慣れたグループホームで過ごされるよう職員の経験・特性を活かした配置とし、職員は常に利用者となふれ合い利用者様にとって笑顔があふれ安心して過ごされる雰囲気作りを心掛け日々より良いホーム作りを目指しています。また、周辺環境としまして、緑多い閑静な環境の中にありながらも比較的交通の便もよくご家族様にも好評をいただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・医療法人が運営しており、24時間対応可能で家族も安心安全で過ごせている。
- ・コロナ5類変更後も面会制約の中、ガラス越しの対面で面会できる室が新しく設置され安心して利用者家族の交流に努めている。
- ・窓から見るとところに大きな桜の木が多くあり、春には室(部屋)に居ながら花見が出来て緑も多く四季を感じれる環境である。
- ・季節に応じ花見・こいのぼり・クリスマス等イルミネーションで四季の移ろいが楽しみとなっている。
- ・内部研修も計画されておりスキルアップに努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関のわかりやすい位置に提示し、理念に沿ったサービスの提供が行えているか定期的な会議の場において理管理者と職員で確認しあっている。利用者様の状況をふまえ生活の指針について話し合っている	理念を玄関の目の付く所に掲示し、理念を大切に、日常的に一人ひとりに寄り添い、共有し支援に活かせる様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策として集団での地域行事等への参加は行えていないが地域の方が散歩中には利用者様へのお声掛けをお願いし庭先で会話を交わしたりと交流を図らせていただいている。今後、以前のように地域の祭りや併設老健での慰問等が再開されれば参加し交流を図っていきたい	コロナ禍で行事や交流が減っていたが、状況を見ながら以前のように近隣に住む人達との交流を楽しみにしている。散歩時には声を掛けて頂いたりして徐々に交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通じて地域自治区長や民生委員等へ入居者様の生活状況や認知症による行動についての事例等の報告とケア内容や対処内容を説明し情報の提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し管理者等スタッフ、利用者様とその家族様、市職員や地域自治区長及び民生委員に参加していただき入居者様の生活状況等を説明し意見を頂きサービスの見直しや検討へ活かしている	二ヶ月に一度対面での開催で行われている。グループホームの生活状況を報告して、そこでの意見や要望をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いし、事業所の現状や入居者様の生活状況を報告。また、その際には事業運営に関するアドバイスを受けたりしている。	運営推進会議への参加の折、事業所の状況や入居者の情報等共有して協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針であり利用者様には安全に安心して過ごされるように努め内部での研修議題としても毎年研修を行っているほか、法人内で身体拘束適正委員会を設置し毎月身体拘束についての報告と高速実施あれば改善への検討会を行っている	身体拘束をしないケアの実践の内部研修があり職員の共有認識を図っている。一人ひとりの利用者に対し安全に過ごせる工夫や支援に努めている。さりげない声掛けなど気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的、その他利用者様の人権に迫害となりえる全てのことにおいて常に職員は気を配りケアに取り組み、毎年内部研修の議題としてあげ話し合いを行っている。また、法人内で虐待についての報告と検討会を毎月行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の利用の実例はないが権利擁護について内部での研修を行い認識を深め必要な場合にはいつでも支援できるよう体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前相談時から施設内の見学や環境等を丁寧に説明し利用者様及びご家族様が十分に納得されてから契約を結ぶようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や支払い時には声をかけさせていただき要望や苦情等意見を頂くようにし頂いた意見は管理者へ報告し改善に向けての話し合いを行うようにしている。	家族には電話や訪問時に意見を聞いたり、事務所からの説明したりと、運営にも反映させている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、反映させている。何でも言ってもらえる雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、法人全体の会議とグループホーム職員での会議を行っている。また、報告や相談及び提案等は何でも行えるようになっており、個別的にも直接に管理者へ意見や要望を伝えることもできている	毎月法人全体の会議とグループホーム職員での会議があり相談しやすい関係であり、コミュニケーションが取れている。意見や要望を聞く機会を設けて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況や実績を把握しスキルアップのための助言や方向性について話し合っている。また、職員個々の適性と得意な分野を活かした配置としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やグループホーム内での研修やテーマに沿った勉強会を毎月開催し外部での研修も可能な限り参加してその内容については他職員への周知を行っている。また、職員同士がお互いに技術向上についても意見を交わしあう環境にある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	由布物忘れネットワークによる定期的な研修会への参加やゆーふーネットワークへの参加、情報の交換の場として活用を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居への相談は相談員が窓口となり訪問調査を行い利用者様・ご家族様の要望を確認し情報を得よう努め不安内容の明確化が図れるよう努めている。また、入居時には環境の変化による不安がないよう、可能な限り寄り添える時間を意識し関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には利用者様・ご家族様からホームでの生活についての希望することや不安を十分に聞き安心し納得していただけるよう対応している。また、希望されるご家族様にはSNSを利用し入居後の状況を報告しご家族様との信頼関係作りを図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し問題点や不安、悩み等を十分に聞きその軽減に努めている。また、今後のサービスの内容についても相談し説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の残存機能を考慮し日常で行われる家事を職員と一緒に取り組んだり状況に合わせた役割が持て共に生活が築けるよう援助している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは共に利用者様を支える関係を築くため、利用者様に必要と思われる支援への助言や近況を面会時に限らず電話・SNS等を用いて伝え関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策として直接的な面会には行っていないが面会室での面会を行っている。また、終末期を迎える利用者様へは管理者の許可のもと、居室での面会を行い、その際にはご家族様に限らず知人等も可能な限り面会が行えるよう努めている	感染対策を第一に考え、面会室も出来たので馴染みの人との面会が行われ、関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格などを考慮し利用者様同士と一緒に家事等取り組み生活を共に支えあう関係作りに努めている。また、離床が困難となっている利用者様へ他入居者様が居室に赴き一緒に過ごせるよう仲介を援助したりと孤立しない関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時後の同法人内のサービス利用時には利用者様へ声をかけさせていただき状況の確認を行っている。また、居宅支援専門員を通じて生活状況を確認し相談事が生じたときには気軽に連絡をしていただけるよう伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはセンター方式を用いたアセスメントを使用しご本人様の意向や生活状況を確認し可能な限り意向に沿えるケアが提供されるように努め日々のケアからもご本人様・ご家族様の意向を確認しながらサービスに結び付けられるように努めている	日々の関わりの中で声をかけて把握に努めている。センター方式を用いてアセスメントをしている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得る様にしている。情報は職員間で共有して支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にはご本人様やご家族様より生活歴や生活環境、楽しまれていたこと等の情報収集に努め利用者様個々にあった生活が送られるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の心身状況、疾患等を把握し残存機能を活かした生活への取り組みや身体機能の低下を防ぐケアへの取り組みに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向を考慮し介護・看護・医師等と協議し計画を作成。定期的かつ状況の変化に伴いモニタリングを行っている。	本人や家族には日々の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に活かされている。定期的にあセスメントした介護計画があり、利用者の情報を話し合いモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、利用者様の状況を日誌・介護記録に記録し日常と違う状況や体調の変化については日々の申し送りで管理者、職員へ伝達し職員全体が情報を共有し都度のケアの見直しや新しいケアへの取り組みに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設医療機関受診の付き添いや他医療機関へ受診時にはホームでの状況等の情報提供や付き添いを等を行っている。終末期を等グループホームで希望される利用者様、ご家族様へは変化する状況に合わせたニーズへの対応も行えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症への対策として集団での買い物等への外出は自粛しているが個別に近隣の小学校までや施設周囲を散歩したり個別に近所への買い物への同行を行い可能な限り地域での生活が楽しめるように援助している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医療機関がかかりつけ医であり定期的な訪問診療や状況に応じた受診や検査を行っている。また、ご本人様・ご家族様の意向により従来の医療機関の受診・訪問診療共に可能。専門医への受診が必要な時には情報提供などを行い連携を図っている	併設医療機関がかかりつけ医であり、家族の希望に応じ以前からの先生に訪問診療で受ける利用者もいる。(訪問看護もあり)情報提供をして密に連携を図っている。情報共有で重度化終末期の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関の看護師の訪問が毎日あり身体状況の報告を行っているほか、利用者様の体調に変化がある時には報告・相談し助言を得ている。また、すぐにも駆けつけていただける環境であり連携が図られやすい		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設医療機関主治医の判断により入院が必要な状況となれば迅速な対応が可能であり主治医より入院先となる医療機関への情報提供はもとよりホームからも情報の提供に努め、入院後も状況の確認を行い退院時には状況に応じた施設での対応が行えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化についての説明を行い、終末期を迎える際には医師とご家族様とで今後の方針についての話し合いがなされ利用者様・ご家族様の意向に沿いホームで出来ること、出来ないことを見極め医師・看護師を含めご本人様が安楽な終末期を過ごされるよう支援している	入居時に重度化について説明をし、事業所として対応し得る方針について話し合いが行われ理解を頂いている。看取りに関しても連携が取れている。終末期はチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の備えとしてマニュアルを作成し随時対応できるように努めている。また、緊急時の対応についても毎年、内部研修としてあげ連絡体制も確認しあっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し職員の招集訓練や災害時、併設機関との協力体制についても確認しあっている。自治区と防災協定を交わし速やかに避難できる体制を整え非常時の食事等の備蓄も施設内にあり不足分に対しても外部契約により対応の準備ができています	年2回の避難訓練を実施し、災害時の併設機関との協力体制についても確認できている。古野地区との協定もあり、食料に関しては備蓄の他に業者との協定もあり安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者様の人権を第一に考えプライバシーに配慮した対応を心掛け支援している。また、知り得た個人の情報についても漏洩しないよう指導している	職員は常に利用者の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ支援している。一人ひとりの情報を皆で共有し、人権を損ねない言葉掛けや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う際には利用者様に合わせご本人様に意向を確認し尊重した対応を心掛けている。また、意思表示がなされにくい時には助言をし利用者様の考えを導き出し納得して生活が送られるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが保たれる範囲内で利用者様個々のペースに沿った食事時間や入浴時間の調整等、ご本人様の意向に沿った生活ができるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、利用者様にはその方らしい身だしなみができるように配慮し支援している。定期的に美容師による訪問での散髪だけでなく行きつけの美容院等があればご家族様付き添いのもと外出し利用することも可能		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房にて調理されているが盛り付けや汁物は利用者様と職員で取り組んでいる。また、個々の好みに応じてパン食で提供したり、誕生日やおせち等の行事食などの要望も厨房へ伝達し対応している。また、嚥下機能に合わせた個々の食事形態への工夫も行っている	併設施設の厨房にて調理されており、行事食や個々によりミキサー食やきざみ食の方の対応も出来、また要望についても伝達し対応が出来ている。職員と利用者が同じテーブルでの食事はコロナ禍で対応は先になりそうである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作成。毎食の摂取量の記録や必要に応じて水分摂取量の調整を管理を行っている。また、定期的な採血検査により主治医、栄養士との協議によって高カロリー補助食の提供も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い経口での食事ができない利用者様においても口腔内の清潔が保たれるよう清拭等を行っている。また、毎月歯科衛生士による研修会に参加し研修内容についても周知されるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々に応じ24時間、定期的な誘導だけでなく利用者様の排泄パターンや言動を観察し適宜トイレでの排泄を援助し失禁の軽減に努めている。また、オムツ類も排泄の自立に向けた物品の使用を行い常時オムツ内に排泄される利用者様においても排泄量の多い時間を把握し不快感のないように対応を行っている	利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導につなげて様子を見ながら対応している。日中はトイレで排泄し、夜間は良眠を優先する為オムツの利用者もいる。排泄量の多い時間を把握して、個々の対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄状況の観察と記録を行い個々の排泄状況に応じた緩下剤の使用について主治医と検討し援助している。また、日常的に緩下剤に頼らないよう運動や個々の消化機能に応じた食事形態の工夫も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を援助し希望があれば毎日の入浴も可能。また、入浴時間も希望に添えるように配慮し入浴ができない利用者様へは部分浴や全身の清拭を行い、身体状況によっては併設施設でのリフト等の機械浴の利用も可能である	週二回が基本となっている。希望があれば応じてもらえる。(午前中の中の入浴を午後に変更など)ゆず湯等、季節を感じてもらえる工夫をしている。体力的に無理な時はシャワー浴での対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに配慮し日中は共有空間で過ごせるように援助しながら利用者様個々の体調や体力に応じ、いつでも居室で休んでいただけるようにしている。また、夜間の安眠に繋がるよう夕方入浴を行うなどの対応も可能である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様個々の服薬情報を周知しており服薬前後には誤薬事故とならないように確認しあっている。また、服薬による状況の変化や食事摂取量が少ないときの利尿剤の服薬が妥当であるか等を主治医へ報告と確認を都度に行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能に配慮した家事活動への取り組みを行い、個々の能力に応じた役割を持ちながら数名で取り組むことで利用者様同士の関係作りの場としている。また、個別的な余暇活動への取り組みへも援助も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症への対策として外出しての行事は自粛中であるがご家族様の付き添いによる個別的な外出についてはご家族様と連絡調整しご家族様の健康状態を確認後に管理者の許可のもと行なっている。また、個別的には施設周囲の散歩や敷地内での行事等も行っている	感染症の対策をしながらの散歩が徐々に出来る様になって来た。安心・安全に外気にふれる機会を工夫し支援している。敷地内には桜の木があり花見時期にはベランダからお茶をしながら日光浴も出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に金銭管理簿を作成し多額の金銭は事務所で管理しながらも希望に応じ少額であればご家族様の了承のもとご本人様が所持している。また、買い物は職員が代行して行っているが近くの商業施設へ個別にお連れし買い物をされる利用者もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族様の希望に応じ携帯電話の持ち込みが可能。また、希望に応じて都度の連絡の援助を行っている。また、古くからの知人と手紙や年賀状等のやり取りも代筆したりと援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不安を感じないよう家庭的な雰囲気となるよう努め季節に応じた飾りなどを行っている。また、利用者様の写真や創作物等を廊下に展示したり利用者様とプランターを用いた菜園をしたりと生活の場としての認識が得られるようにしている	共有空間にソファがあり、廊下やホールの壁には利用者の写真や手芸品が掲示されている。温かく利用者が落ち着いて過ごせる工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室だけでなく共有空間においても利用者様同士で落ち着いて過ごせる空間作りに気を配り食事時等の席の位置も気の合う方と隣り合わせて座ったりと配慮している。また、ご夫婦で入居されたときには事前に確認したうえで居室が隣り合うように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の位置は可能な限り利用者様個々の心身状況に配慮した位置とし自宅で使われていた愛直あるものを持ち込んでいただくようにし安心感が得られるように配慮している。	寝具や使い慣れた私物を持ち込み個々の好みの室になる様工夫されている。日当たりもよく、室には畳の部分もある為、自宅の様な雰囲気になり落ち着くことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで要所には手すりが設置。二階からはエレベーターでの昇降も可能。居室位置はトイレでの排泄が行えるように移動が安楽となるような位置としたり、可能な限り利用者様のざんぞん機能を活かし、なおかつ事故のないよう生活環境に配慮している		